

2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月14日

上場会社名 株式会社パートナーエージェント 上場取引所 東
 コード番号 6181 URL http://www.p-a.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 茂
 問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長 (氏名) 伊東 大輔 TEL 03-5759-2700
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	701	△64.6	△824	—	△821	—	△821	—
2020年3月期第1四半期	1,981	86.4	88	260.2	90	778.1	65	876.9

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △820百万円 (-%) 2020年3月期第1四半期 64百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△78.19	—
2020年3月期第1四半期	6.41	6.14

(注) 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	5,416	216	4.0
2020年3月期	5,478	1,025	18.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 216百万円 2020年3月期 1,025百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスによる影響を現段階において合理的に算定することが困難なことから未定としております。業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理：有

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	10,726,800株	2020年3月期	10,714,800株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	209,329株	2020年3月期	227,229株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	10,501,971株	2020年3月期1Q	10,190,078株

(注) 当社は、「株式給付信託（従業員持株会処分型）」を導入し、当該信託にかかる信託口が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式としているため、上記期末自己株式数には信託口が所有する当社株式（2020年3月期227,100株、2021年3月期1Q209,200株）が含まれております。また、信託口が所有する当社株式を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。（2020年3月期1Q273,962株、2021年3月期1Q219,593株）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績等の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績等の概況

当社グループは、経営理念である「世の中に、もっと笑顔をもっと幸せを。」という想いのもと、婚活業界では変革者としてより多くの成婚機会の創出を続け、カジュアルウェディング業界ではお客様の期待を超越する新たな結婚スタイルを創造しています。また、豊かな社会の実現に向けITやテクノロジーを活用した各種サービスや、お客様の生活品質向上に貢献するサービス、さらにはこれまで培った知見やノウハウを活かした法人向けサービスを展開しています。

当第1四半期連結累計期間(以下、「当第1四半期」)においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大幅な減収減益となりました。とくに、婚活領域の結婚相談所は入会時期の再検討の申し出が相次ぎ、婚活パーティーは開催の大部分が見送りとなりました。また、カジュアルウェディング領域は挙式披露宴や結婚式二次会の施行の大部分が延期・キャンセルとなりました。

この結果、当第1四半期の売上高は701百万円(前年同期比64.6%減)、営業損失は824百万円(前年同期は営業利益88百万円)、経常損失は821百万円(同経常利益90百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は821百万円(同親会社株主に帰属する四半期純利益65百万円)となりました。また、当社の重要な経営指標と位置付けるEBITDA(営業損益に償却費を加えて算出)は△729百万円(前年同期は163百万円)となりました。なお、前第4四半期及び当第1四半期より株式会社Mクリエイティブワークス並びに株式会社pmaをグループに迎え入れています。

当社グループは、当第1四半期より今後の戦略領域を新たに区分するため、「婚活領域」「カジュアルウェディング領域」「テック領域」「ライフスタイル領域」「法人領域」の5つの領域別セグメントを開示しています。当第1四半期の各領域の取り組みは以下のとおりです。

※従前の報告セグメント毎の売上高及び利益については11ページをご参照ください。

(婚活領域)

婚活領域においては、主に付加価値の高い結婚相談所の運営とエントリー型の結婚相談所・婚活パーティーの企画開発及び運営等を行っています。

当第1四半期は、原点回帰で強固となった事業基盤のもと、成婚率No.1(※)を強みとした各種施策を推進しました。とくに、広告面では婚活全般の機運醸成に向けて女性アイドルグループを起用するとともに、サービス面では結婚相談所の会員様向けコーディネートサービスを開始しました。併せて、オンラインや郵送等を活用した来店不要の取り組みも進めました。また、第2四半期に向けて、仙台店のオープン準備を進めるとともに、独身証明書必須のワンランク上の婚活パーティーの企画開発を行いました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、結婚相談所の新規入会者数は前年同期比58.4%減の927名、成婚退会者数は同44.2%減の435名、2020年6月末の在籍会員数は同9.0%減の10,606名となりました。また、婚活パーティーの参加者数は同91.8%減の5,506名となりました。なお、婚活パーティーから結婚相談所への紹介は開催数の減少により同82.2%減の38名となりました。これらの結果、婚活領域の売上高は同34.4%減の573百万円となりました。

※ 株式会社ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング調べ

<同領域の主要指標>

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	前年同期 増減率及び増減
新規入会者数	2,227名	927名	△58.4%
在籍会員数(期末)	11,653名	10,606名	△9.0%
成婚退会者数	779名	435名	△44.2%
成婚率	26.9%	16.2%	△10.7pt
パーティー参加者数	66,831名	5,506名	△91.8%
パーティー開催数	5,989回	442回	△92.6%

- (注) 1. 成婚とは、当社のサービスを利用して知り合った会員同士が、結婚を視野に入れ交際を継続していくことをいい、当社が成婚の意向を双方の会員から確認した場合に、当該会員は成婚退会をすることになります。
2. 成婚率とは、在籍会員中何名の会員が成婚退会しているか、その割合を示すものです。具体的には、成婚率は、毎年4月1日から翌年3月末までを計算期間とし、以下の計算式にて算出しています。
- (計算式) 年間成婚退会会員数÷年間平均在籍会員数
3. 第1四半期における成婚率の計算をする際には、前項の通期の計算式に準じるため、第1四半期の平均在籍会員数を4で除して算出しています。
4. 成婚率及び増減率は、小数点第二位を四捨五入しております。

(カジュアルウエディング領域)

カジュアルウエディング領域においては、近年広がりを見せるカジュアルウエディング(カジュアルな挙式披露宴、少人数挙式、会費制パーティー、フォトウエディング、結婚式二次会)のプロデュース等を行っています。

当第1四半期は、主力商品である「スマ婚シリーズ」のさらなる品質強化に努めるとともに、withコロナ時代を見据えた新たな結婚式スタイルの創出に注力しました。とくに、品質面では上質な会場を安定的に確保できる体制を構築し、新たな結婚式スタイルの創出では高品質なロケーションでのフォトウエディングやリアルとオンラインを融合した挙式パーティー・結婚式二次会等を順次開始しました。併せて、完全貸切型フォトウエディングスタジオも銀座にオープンしました。また、第2四半期に向けて、「スマ婚シリーズ」のリニューアル・リブランディングの準備を進めました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「スマ婚シリーズ」の成約件数は前年同期比69.3%減の138件、施行件数は同93.7%減の21件となりました。また、「2次会くん(二次会幹事代行)」の成約件数は同79.3%減の198件、施行件数は同99.9%減の1件となりました。なお、フォトウエディング「LUMINOUS」は6月以降受注が拡大しており、成約件数は100件(前年同期は102件)、施行件数は64件(同75件)となりました。これらの結果、カジュアルウエディング領域の売上高は同93.2%減の69百万円となりました。

<同領域の主要指標>

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	前年同期 増減率及び増減
(成約件数)			
スマ婚シリーズ	449件	138件	△69.3%
2次会くん	955件	198件	△79.3%
LUMINOUS	102件	100件	△2.0%
(施行件数)			
スマ婚シリーズ	334件	21件	△93.7%
2次会くん	892件	1件	△99.9%
LUMINOUS	75件	64件	△14.7%

- (注) 1. 2020年3月より株式会社Mクリエイティブワークスをグループ化しており、2020年3月期第1四半期のLUMINOUSの施行件数については、2020年3月期第1四半期連結業績に含まれておりません。
2. 増減率は、小数点第二位を四捨五入しております。

(テック領域)

テック領域においては、ITやテクノロジーを活用した婚活テックやウエディングテックサービスの企画開発及び提供等を行っています。

当第1四半期は、新たな生活スタイルにおける婚活需要に対応するため、オンラインを活用した各種取り組みを推進しました。とくに、婚活支援事業者間の相互会員紹介プラットフォームとなる「コネクトシップ」では、場所に囚われずお見合いを実現できる自動オンラインお見合いシステムを独自開発し提供を開始しました。併せて、マッチングアプリでは、マッチングからファーストデートまでをオンライン上で実現できる完全無料の恋活アプリの提供を開始しました。また、第2四半期に向けて、「コネクトシップ」では利用事業者の拡大施策に努めました。なお、「コネクトシップ」の2020年6月末の利用会員数は前年同期水準で推移し、お見合い成立件数は6月以降回復基調となり前年同期比30.0%減の54,928件となりました。これらの結果、テック領域の売上高は同8.2%減の41百万円となりました。

<同領域の主要指標>

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	前年同期 増減率及び増減
コネクティブ 利用会員数(期末)	28,378名	28,146名	△0.8%
コネクティブ お見合い成立件数	78,496件	54,928件	△30.0%
コネクティブ 利用事業者数	8社	10社	+25.0%

(注) 1. 増減率は、小数点第二位を四捨五入しております。

(ライフスタイル領域)

ライフスタイル領域においては、生活品質向上に資するサービス(保険・金融・不動産等)の提供等を目指しています。

当第1四半期は、将来的な取扱サービスの拡充と当社グループの顧客以外への外販を見据えた基盤整備に注力しました。とくに、従前は保険の販売(代理店)や住宅情報サービスの提供等となっていた事業領域を、保険全般・金融・不動産等の幅広い分野に事業領域を拡大させるべく、当該領域に深い知見を有する人材を招聘し、新たな事業本部を立ち上げました。なお、保険の販売では、前下半期に提供エリアを拡大したこと等により順調な販売となりました。また、第2四半期に向けて、婚活やカジュアルウェディング領域の顧客に対する資産形成セミナー等の企画開発を進めました。これらの結果、ライフスタイル領域の売上高は同50.9%増の9百万円となりました。

(法人領域)

法人領域においては、入社式、表彰式、社員総会等の企業イベントのプロデュースや地方自治体向け婚活支援システム「parms」の販売等を行っています。

当第1四半期は、新たな生活スタイルにおける企業イベント需要を見据えたサービスの企画開発を行うとともに、婚活支援の充実を検討する地方自治体への提案強化に努めました。とくに、企業向けイベント「イベモン」では、映像と専用アプリ付きのオンライン懇親会サービスの受注を開始し、6月以降好調な推移となりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、従前の企業イベントの受注が低調に推移したことで、成約件数は前年同期比80.8%減の5件、施行件数は同91.3%減の2件となりました。これらの結果、法人領域の売上高は同92.4%減の1百万円となりました。

<同領域の主要指標>

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	前年同期 増減率及び増減
イベモン成約件数	26件	5件	△80.8%
イベモン施行件数	23件	2件	△91.3%

(注) 1. 増減率は、小数点第二位を四捨五入しております。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ61百万円減少し、5,416百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ173百万円減少し、1,826百万円となりました。主な要因は、売掛金172百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ111百万円増加し、3,589百万円となりました。主な要因は、のれん637百万円の増加、長期貸付金450百万円の減少によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ746百万円増加し、5,199百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ96百万円減少し、1,776百万円となりました。主な要因は、短期借入金175百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ843百万円増加し、3,422百万円となりました。主な要因は、長期借入金852百万円の増加によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ808百万円減少し、216百万円となりました。主な要因は、利益剰余金821百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、婚活領域の結婚相談所は5月上旬まで入会時期の再検討の申し出が相次いでいましたが、5月下旬以降は回復基調が顕著となりました。併せて、7月にオープンした「パートナーエージェント仙台店」は、オープンから1カ月で来店予約が100名を突破し、新規入会も好調に推移しています。また、カジュアルウェディング領域のフォトウェディングは6月以降の受注が好調に推移しています。しかしながら、同領域の大人数の挙式披露宴や結婚式二次会は、新型コロナウイルス第二波の影響もあり延期やキャンセルが続いています。このため、例年施行が集中する秋の状況も含めた業績予想の合理的な見積もりが困難であり、現時点で2021年3月期の連結業績予想は「未定」とさせていただきます。なお、連結業績予想については、今後開示が可能となった段階で速やかに公表していく予定です。また、中期経営計画については、2020年11月の公表予定から変更はございません。

(新型コロナウイルス感染症に係る事業等のリスク)

当社グループは、2020年6月末時点において現金及び預金986百万円を保有しておりますが、当社グループの予想を超えて新型コロナウイルスの感染拡大の影響が長期化した場合、継続的な資金流出が予想されることから当社グループの財政状態が大きく悪化する可能性があります。また、感染拡大の影響が長期化した場合、当社グループが対面する市場環境や顧客の財政状況が悪化し、既存事業が縮小し、当社グループの収益が減少する可能性があります。このため、当社グループでは新規借入等による資金調達によって手元流動性の確保に努めるとともに、今後需要拡大が見込める領域への経営リソースの集中も併せて進めております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,040,866	986,789
売掛金	682,585	510,429
その他	315,727	367,535
貸倒引当金	△39,223	△38,512
流動資産合計	1,999,955	1,826,242
固定資産		
有形固定資産		
建物	664,427	706,626
減価償却累計額	△218,395	△232,491
建物(純額)	446,031	474,135
工具、器具及び備品	320,076	346,932
減価償却累計額	△223,300	△232,211
工具、器具及び備品(純額)	96,776	114,721
その他	49,055	42,469
減価償却累計額	△6,544	△9,119
その他(純額)	42,511	33,349
有形固定資産合計	585,319	622,205
無形固定資産		
ソフトウェア	278,411	240,102
ソフトウェア仮勘定	128,017	155,811
のれん	1,005,949	1,643,439
無形固定資産合計	1,412,378	2,039,352
投資その他の資産		
投資有価証券	133,850	134,756
敷金	550,530	554,779
貸倒引当金	-	△105,128
その他	795,531	343,497
投資その他の資産合計	1,479,912	927,904
固定資産合計	3,477,610	3,589,463
繰延資産	685	614
資産合計	5,478,251	5,416,320

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	705,000	530,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	623,520	668,895
未払金	205,852	262,824
未払法人税等	36,466	35,229
その他の引当金	8,107	7,038
その他	254,442	232,527
流動負債合計	1,873,388	1,776,514
固定負債		
社債	60,000	60,000
長期借入金	2,266,960	3,119,831
資産除去債務	212,857	207,208
その他	39,293	35,902
固定負債合計	2,579,111	3,422,942
負債合計	4,452,499	5,199,457
純資産の部		
株主資本		
資本金	263,770	264,252
資本剰余金	226,182	226,664
利益剰余金	669,118	△151,993
自己株式	△131,398	△121,046
株主資本合計	1,027,672	217,877
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,920	△1,014
その他の包括利益累計額合計	△1,920	△1,014
純資産合計	1,025,751	216,863
負債純資産合計	5,478,251	5,416,320

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	1,981,181	701,415
売上原価	955,941	450,631
売上総利益	1,025,239	250,783
販売費及び一般管理費	936,620	1,075,320
営業利益又は営業損失(△)	88,619	△824,536
営業外収益		
受取保証料	3,552	3,552
助成金収入	14,508	12,620
その他	2,221	4,536
営業外収益合計	20,282	20,708
営業外費用		
支払利息	6,177	8,655
持分法による投資損失	8,325	8,325
その他	4,360	877
営業外費用合計	18,863	17,857
経常利益又は経常損失(△)	90,038	△821,685
特別利益		
事業譲渡益	44,716	—
特別利益合計	44,716	—
特別損失		
減損損失	12,371	—
特別損失合計	12,371	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	122,383	△821,685
法人税等	57,090	△573
四半期純利益又は四半期純損失(△)	65,292	△821,111
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	65,292	△821,111

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	65,292	△821,111
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△716	906
その他の包括利益合計	△716	906
四半期包括利益	64,575	△820,205
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	64,575	△820,205
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益または税引前四半期純損失に法定実効税率を乗じた金額に、繰延税金資産の回収可能性を考慮しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定については、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結損益計算 書計上額 (注) 3
	婚活事業	カジュアルウ エデ ィング事業 (注) 1	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	915,833	1,043,387	21,960	1,981,181	-	1,981,181
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	1,607	4,460	6,067	△6,067	-
計	915,833	1,044,994	26,421	1,987,249	△6,067	1,981,181
セグメント利益又 は損失(△)	205,697	55,251	△4,123	256,825	△168,206	88,619

- (注) 1. カジュアルウエディング事業セグメントにはのれん償却額16,393千円が含まれております。なお、2020年3月期第2四半期より、報告セグメントの名称をウエディング事業からカジュアルウエディング事業に変更しております。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△168,206千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用の主な内容は、報告セグメントに帰属しない一般管理費です。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結損益計算 書計上額 (注) 3
	婚活事業	カジュアルウ エディング事業 (注) 1	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	614,297	62,415	18,359	695,071	6,343	701,415
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	40	635	675	△675	—
計	614,297	62,455	18,994	695,746	5,668	701,415
セグメント利益又 は損失(△)	△31,547	△536,671	△24,454	△592,673	△231,863	△824,536

- (注) 1. カジュアルウエディング事業セグメントにはのれん償却額38,219千円が含まれております。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△231,863千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用の主な内容は、報告セグメントに帰属しない一般管理費です。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

2020年4月1日付で株式会社p m aの株式を取得し新たに連結子会社化したことに伴い、カジュアルウエディング事業セグメントにおいてのれんが675,709千円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。